

防衛施設学会は、平成29年3月17日（金）、海上自衛隊横須賀地方隊の見学会を実施し、米国軍事技術学会（Society of American Military Engineers: SAME）会員3名を含む44名が参加しました。

今回の見学会は、海上自衛隊横須賀地方総監部の御協力により、①護衛艦体験乗艦、②部隊食体験喫食、③横須賀港海上視察、④海上作戦センター工事現場視察、⑤記念艦「三笠」見学、と盛り沢山な内容で実施されました。

海上自衛隊横須賀基地に到着後、横須賀地方総監部管理部施設課長のご挨拶、基地概況説明を受け、横須賀地方隊の編成、任務等について理解を深めることができました。

その後、逸見岸壁に停泊している第11護衛隊所属あさぎり型汎用護衛艦DD153「ゆうぎり（基準排水量3,500トン）」に乗艦し、艦内の各種装備品や信号ラッパ等の説明を受けました。日頃身近に見ることのできない艦艇装備であることから、参加者から各説明員に対し様々な質問が出され、予定時間をオーバーする状況でした。質問の尽きない中、隊員が吹奏するラッパの見送りを受けて「ゆうぎり」をあとにしました。



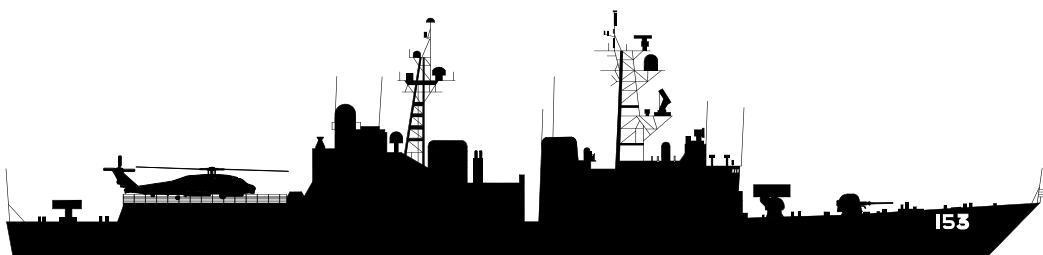
横須賀地方隊概況説明



護衛艦「ゆうぎり」にて

昼食は、長浦隊員食堂において部隊食の有料体験喫食。当日は金曜日であったことから、献立は海自定番の金曜カレー。旧帝國海軍の創設期、範とした英国海軍では保存の利くカレー粉を使用した料理を海軍食として採用していたそうですが、日本海軍もカレーなどの洋食を摂ると、当時日本の風土病とされていた恐ろしい「脚気」を予防できるということで、洋食を取り入れたそうです。また、長い航海が続くと曜日の感覚が失われるところですが、決まって週末の昼食にカレーが出されたことで曜日の感覚を保ったそうです。海上自衛隊になってもこの伝統は受け継がれ、週休二日制となった現在では、金曜日の昼食にカレーを食べるのが習慣となっているそうです。海自の街、横須賀市をはじめ各市町（呉、佐世保、舞鶴、大湊、大村等）では「海自カレー」による町おこしが行われており、各艦自慢のレシピで調理したカレーを飲食店で提供しているとのこと。なお、海自カレーのレシピについては、海上自衛隊のホームページでもご覧になれます。

<http://www.mod.go.jp/msdf/formal/family/recipe/archive/currey.html>



隊員手作りのおいしいカレーを堪能した後、参加者は曳船に乗船して横須賀基地諸施設を海上から見学しました。吉倉地区を出港し、米海軍横須賀基地前を通過して吾妻島に向かい、新井掘割水路を通過して、長浦地区の棧橋・護岸の建設工事の状況や各地区の諸施設を視察しました。

海上視察の後には、船越地区へ移動し、現在土木工事中の海上作戦センターの工事状況を視察しました。同施設は、関東自動車工業(株)の用地を海上自衛隊が取得し、27年度に建設工事に着手したとのことで、28年度は建築工事を契約し、今後、公務員宿舎等が計画されているプロジェクトであるそうです。

今回最後の見学は、三笠公園内の記念艦「三笠」の見学でした。皆様良く御存知の通り、三笠は日露戦争・日本海海戦時の聯合艦隊旗艦です。現在、陸地に固定されているものの、歴とした防衛省所管国有財産で、海上自衛隊が公益財団法人三笠保存会に管理・運営を委託しているそうです。三笠保存会による説明のあと、各自で艦内の展示物等を見学。「坂の上の雲」の世界に浸ったひと時でした。



昼食の海自カレー



海上からの横須賀基地施設の視察



海上作戦センター工事現場視察



記念艦「三笠」見学

今回、以上のような内容で海上自衛隊施設を見学できましたことは、各参加者の貴重な体験になったものと思います。

当日は気温も穏やかな小春日和の一日で、関係する全ての皆様のご協力により事故等もなく無事、見学会を終了することができました。

今回の見学会では、多数の参加申し込みがあり、誠に遺憾ながら、法人会員については各社1名に絞らせていただきました。

当学会では、会員の皆様には防衛施設技術、安全保障政策に関する理解を深めていただくため、今後もこのような見学会を実施していく所存です。

最後に、今回の見学会の実施にあたり事前準備や現場の案内等ご協力いただいた海上自衛隊横須賀地方総監部の皆様及び当学会の主催する見学会に参加していただいた皆様に深甚なる謝意を申し上げます。参加者の皆様、駆け足の見学会、ご苦労様でした。次回の見学会を楽しみに待っててください。